

関西地本阪神支部青年部副部長 村尾祐紀

今回、阪神支部青年部として「第47回 5.15 沖縄平和行進」に参加しました。今回の平和行進は昨年が続いて2回目の参加で、沖縄の現状をより深く知るために参加しました。前回の参加以来、私生活においても沖縄や戦争、政治に関するニュースへの関心が格段に高まり、現地に足を運び情報を直接得る重要性を学びました。

今回の平和行進で歩いた普天間基地周辺では、住民が日常生活を営む背後で、基地では連日危険な軍事訓練が行われています。2004年には沖縄国際大学にオスプレイが墜落し、沖縄県民の安全が脅かされ続けている現実を肌で感じました。

視察で訪れた辺野古基地建設現場では、昨年よりも作業範囲が拡大し、作業船の数も増えていました。県民が必死に反対の声を上げる中、日本政府は辺野古基地建設を強行しています。この行為が国民のための政治と言えるのか疑問に思いました。日本の一方的な政治を変えるには、平和を願う国民全員が団結し、数の力で戦うことが重要だと感じました。地元に戻った後も、沖縄で得た知見を広め、日本全体に平和への思いを波及させることが日本の平和を築く手段だと確信しました。

最後に、受け入れから行程の段取り、BBQ 懇親会の開催に至るまでご尽力いただいた沖縄地方本部の皆様に、心から感謝申し上げます。